

# 21 登山道の整備

## ◎これまでの議論

○歩くアルペンルートなど、素晴らしいトレッキングコースではあるが、老朽化が目立ち、**登山道の整備・更新が必要**ではないか。

○増加している訪日旅行者に対応するため、登山道の案内看板等の**多言語表記・案内の充実が必要**ではないか。

○登山道には、行政が管理していないものがあり、**安全確保や維持の仕組みの検討が必要**。

○利用者の安全性、利便性向上のため、ルートごとのコース番号の設定や、一定距離ごとのナンバリングなど、**緊急時に情報伝達しやすい仕組みを導入すべき**ではないか。

○欧米豪の旅行者が増えているが、自然の奥深さを見に来ているので、更なる保全が必要。期待に応えるには、保全活動や維持管理の財源確保など、**世界レベルの仕組みを導入していくべき**ではないか。



老朽化した木道(スリップ事故多発)

○登山道の整備・更新  
 ・例えば、**歩くアルペンルートの再整備、弥陀ヶ原～大日平にあった吊橋の復元整備**など

○案内看板の更新(多言語)

○県民協働による登山道の整備



弥陀ヶ原のハイキング



継続実施

山小屋等の意見を聞きながら、案内看板・道標等の再整備と言語表記やデザインの統一化、登山道等のクオリティアップを実施する。

○登山道のクオリティアップ(県)



ボランティアによる安全対策



弥陀ヶ原の木道再整備

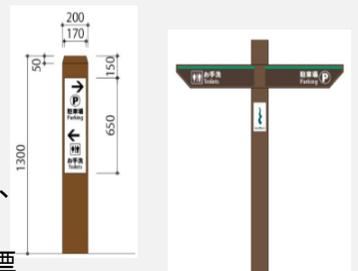


ユニバーサルデザイン化

○看板の言語表記やデザインの統一(環境省)

中部山岳国立公園登山道標識統一デザイン基準(案)

- ・使用言語は日本語及び英語の二言語表記。
- ・記載事項は、行き先、現在地、矢印、アイキャッチ、設置者名、ナンバリングを基本。
- ・安全対策及び外国人登山者の対応として、表示面に登山道標識の固有番号を記載。

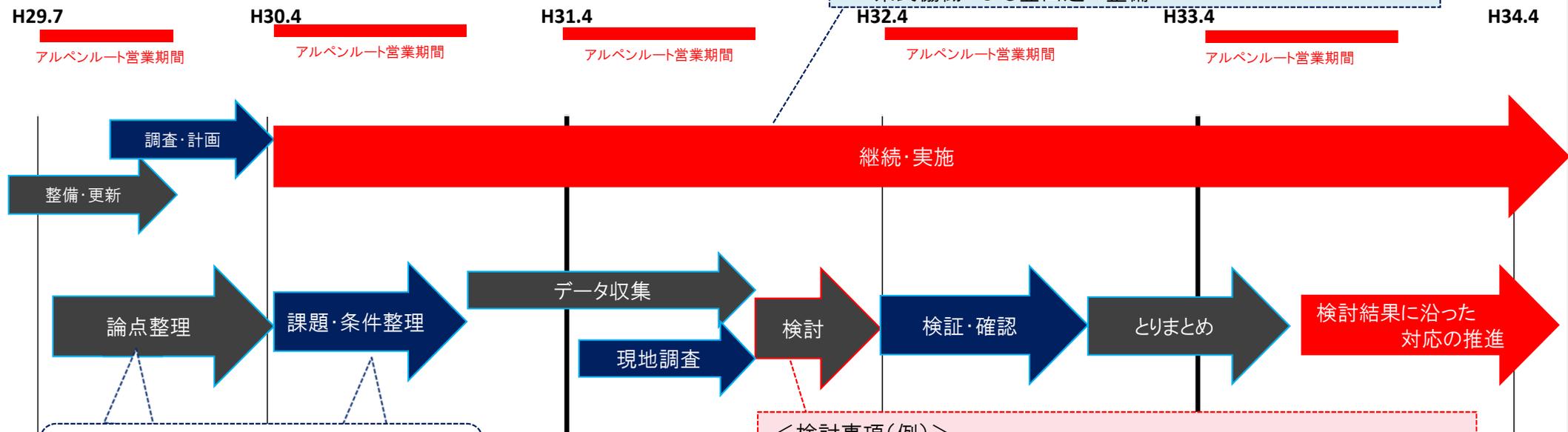


登山道における看板の言語表記やデザインの統一

検討事項

「弥陀ヶ原～大日橋の吊橋復元」といった、魅力的で周遊性の高いルート構築について検討を進める。

◎ スケジュールイメージ



<継続実施>

- ・ 登山道の整備・更新(木道の補修等)
- ・ 案内看板・道標等の再整備と言語表記やデザインの統一
- ・ 県民協働による登山道の整備

・魅力的で周遊性の高いルート構築に向けた、古道や行政が管理していない登山道等の整理

<検討事項(例)>

- ・ 「歩くアルペンルートの再整備」や「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」といった、魅力的で周遊性の高いルートの構築が可能か検討を進める。